

# 桜—まほろばへの回帰

昭島市

佐藤光子（東城町二丁目出身）

故郷へ帰ってこいと桜かな

四月十一日、十二日、Jネットの企画に誘われ、今年も高田の花見に帰省する事が出来た。

桜の見頃に恵まれ、その花の下に莫座を敷き、故郷の酒やワイン、様々な心こもった手料理に至福の時間を心ゆくまで過ごした。

我が母校どれも桜に囲まれて

雅で、しかも艶やかな高田城址の桜。

特に、多感な中学校時代をこの城址の中の校舎で過ごした。部活帰りなどの薄墨色の夜桜は、殊のほか心の奥に言いがたい嬉しさと、仄かな哀しささえも混ざり合わせ、不思議な感動を与えてくれた。

ところが、今も同じだった。

この桜我が原風景の真ん中に

時間を遡るようにして、こうして生れ故郷へ事あることに帰り続けるのは、多分そうした自分の原風景に出会いたいらなのだろう。

川音やつくしかたくりふきのとう

宿泊の「くわどり湯つたり村」には、個人的にも、もう三回泊まっている。

鄙には稀な、おしゃれで美味しい料理、豊富な湯、それに行き届いた職員のもてなしが気に入っているからだ。

翌朝、枕の下を流れる雪解けの川音で目が覚めた。去年は寝坊し、朝の散歩に置き去りにされて悔やんだので、直ぐに

起き出す。

お蔭で、市の職員の方の案内で残雪を踏み、カタクリの群生を觀賞。土筆や踏の藁を摘んで、村里の早春を満喫することが出来た。

黒々と幹の太さや雨の花

朝食後、再び高田へ。雨になる。埋蔵文化財センターを見学の後、岩の原ワインで昼飯。

駅へ向かう車から、雨に打たれる桜を見た。

大雪にも耐えた古木に咲く桜。なかなかの風情だ。それを眼裏に、自分への土産とした。



# 観桜会・桜城会

杉並区 内藤 實（本町六丁目出身）

生きてこそ 友の便りあり  
友と集いて ふるさとなつかしむ

D2（末期）の告知で一度はサクラチルを覚悟したが、危機を脱しつゝ拙い一句を色紙にした。

爛漫の桜が、命が延びた悦びと生きる勇気を与えてくれた。

会場の忠霊塔広場には幼い頃の思い出が蘇る。「英霊にモクトウ」の号令が耳元にする。酷暑に腐った堆肥を諸畑に素足でモッコ担いで運ばされた。臭かった。それから間もなく終戦。あれ以来の忠霊塔広場である。

市長さんのお酌で会は盛り上り、戦争の嫌な思い出は消えた。ご近所だった玉井さんにご挨拶して、我がお袋を思い出した。手を引いて花を見せたのは何年前だったか。

玉井さんはお元氣だから百歳まで頑張ってください。

温泉・山歩き・ワインを堪能して、山菜を家に送った。埋蔵物の陳列館の説明が上手で四百年前にタイムスリップした。

一週間後に再び散りかけた桜の中にある母校の小学・中学に来た。昭和二十六年に卒業した有志三十六名が集った。その中に小学時代に疎開して中学は東京に戻った連中も積極的に参加した。

元大使もいれば大会社の社長もいる。オスギさん（杉臣君）の作詞の桜城会歌を合唱した。五十年過ぎてても忘れていない。

アンコール！ まとめ役の福田君がいれば指揮棒を振っていた筈だ。直前に急逝した。

お呼びがかかる年齢となるが、まだ早

いとお断りして、来年も桜の下で唄いたい。  
「オスギさん、今度は友を偲ぶ歌を作ってください。」  
ふるさとの花見を二度もしたのでから、サクラサクとしよう。  
市の職員の皆様及び小・中学の先生ありがとうございました。



# 春のふるさと交流会

横浜市 日下部治子（南城町一丁目出身）

四月十一日、高田で満開の桜を見ることができました。各地の開花予想も今年よく放送されておりましたが、遠く離れて住む者が花の一番美しい時に訪ねることなど簡単にできるものではありません。早くから観桜会の計画を立て、この日を選んで下さった事務局の皆様には感謝するばかりです。

高田駅から本町通りを三丁目まで、司令部通りを昨春完成の極楽橋に向い、集合場所のJネットの桜の所まで懐かしいものを見つげながら楽しく歩きました。Jネットの桜は若木らしくすつくと立ち、満開の古木にならってきれいに咲いていました。

参加の皆様が揃ったところで輪になって座り、心尽しのご馳走をいただくうちに夕刻、木浦市長が参加下さり親しく歓談しました。

お堀端の道は子供の頃の通学路で、お花見の時には出店や人手で賑わう桜のトンネルを通り抜けてみたり致しましたが、桜よりも氷水屋さんや綿飴屋さんの手際のよい仕草に足を止めて見とれていました。それも半世紀以上昔のことになりました。

今年の桜は花もちがよく、一週間後の中学同期会の日友人達とまたお花見が出来ました。

この次はふるさとどのどんな季節にお訪ねできるか楽しみにしております。



# 観桜会に出席して

茅ヶ崎市 野田ヒロ子（本町六丁目出身）

この度は桜の木のオーナーで成長振りを一目見たい母と観桜会初参加の妹夫婦と義妹で参加する事になりました。車窓から残雪の妙高山を眺め乍ら気分は上々、薄暮の会場に到着しました。心暖まる歓迎を受け輪の中に入れて頂きました。故郷の山菜の数々あさみの佃煮の作り方を聞き乍らしばみ舌鼓みです。心の込めた手料理を御用意下さった方々、大変有りがとうございました。気持ち一緒に頂戴しました。美酒に酔い乍ら夜桜見物これ以上の贅沢はありません。その後くわどり湯ったり村へ。

翌朝は小雨模様。朝食の前、かたくりの花を覗に裏山を散策。小学生の頃雪解け間近い春の山に遠足に行った時の事です。雪の間にピンクのかたくりの花を見つけた、あの時の感動そのまゝ、ふるさとは有りたいですね。

朝食もそこそこにマイクロバスで埋蔵文化財センターへ。埋蔵文化センターでは館長さんの楽しい解説に魅せられました。開放的なスペースと作業もオープンになっていて、とても身近な感じがしました。私は陶芸が趣味ですが、器は特に興味津々、安土桃山時代の「織部御用徳利」は見事なものでした。次に訪れる時新しい出土品に会えると思うと自分のルーツに辿り着く気がして楽しみが増えました。一番楽しみにしていた桜の木オーナーの苗木会場に着きました。そこには、母の名前が刻まれたプレートがかかり、小さい乍ら可愛い花を付けていました。母は大満足、桜を囲んでの撮影は良い思い出になりました。岩の原葡萄園の白ワインは格別な味わいでした。

今回の観桜会では、最後迄時間を延長して熱く語って下さった木浦市長さん、

夢を頂きました。故郷の発展は私達の誇りです。関係者の皆様大変お世話になりました。夜桜を愛でる心、少し分かった気がします。機会が有りましたら、また、参加したいと思っています。

なごり雪 踏みしめのぼる 山はだに  
ほのかに揺れる かたくりの花

（玉井輝二母）

